



令和5年度

まちづくりセミナーの開催報告

「北の住まいるタウン」の実現に向けた取組を進めるヒントとなり、道内の様々な地域において課題解決につながるテーマについて、道内外の現場でご活躍されている担当者の方を講師としてお招きし、先進事例に学ぶまちづくりセミナーをオンラインで開催しました。

本年度は「脱炭素先行地域の取組に学ぶ持続可能な地域づくり」をテーマに、講師から関連するまちづくりのポイントをお話しいただくとともに、chatによる参加者からのご質問に対応いただきました。

日時 令和5年
9月29日(金)
14:00~16:00

参加者 51名(オンライン開催)

テーマ 脱炭素先行地域の取組に学ぶ持続可能な地域づくり

長野県 飯田市 IIDA環境ブランドReborn
～クリーンエネルギーで「結い」の力を再生～

講師:飯田市市民協働環境部ゼロカーボンシティ推進課
課長補佐兼地域エネルギー政策係長 小林 晋氏



講師の小林氏

2009年、環境モデル都市に選定された飯田市。「環境文化都市」を目指し、地元企業・市民・NPOなどが地域ぐるみで様々な環境問題に取り組んでいます。中でも市民ファンドを活用した太陽光市民共同発電事業モデルをいち早く実現したのが飯田市です。

飯田市の環境政策の中で特徴的な「地域環境権条例」では、市民が再生可能エネルギーを活用して地域課題解決に取り組む「地域環境権」を設けることにより、これまでに24件の事業が創出されています。

2021年3月「2050年いいだゼロカーボンシティ」を宣言、2022年11月「第2回脱炭素先行地域」に選定されました。飯田市は、「結い」による協働性を育みつつ「環境文化都市」のReborn(再構築)のステージに入っています。

石狩市 再生可能エネルギーの地産地活・脱炭素で地域をリデザイン!

講師:石狩市 企画経済部 企業連携推進課
課長 加藤 純氏



講師の加藤氏

北海道を代表する産業拠点「石狩湾新港地域」において、洋上風力発電・木質バイオマス発電・太陽光発電などの再生可能エネルギーを供給する「REゾーン」を設定し、市場の拡大で誘致を推進しているデータセンターへの再エネ電力供給など、地域脱炭素と産業集積の両立を目指しています。環境への投資を経済の好循環に結びつけ、再エネの地産地活によるGX(グリーントランスフォーメーション)を推進しています。道の駅をはじめとした公共施設群の脱炭素化に向けては、太陽光発電を活用したマイクログリッド事業にPFI法に基づくコンセッション方式を採用し、民間事業者による自由度のある運営をしています。

2020年12月ゼロカーボンシティ宣言、2022年4月「第1回脱炭素先行地域」に選定されました。

参加者からの
質問と回答

環境文化都市づくりプラットフォーム「うごく。」での信金の役割は?

信金は再エネ活用事業の投融資で事業の知見があり、企業との繋がりも生かしてくれる

大企業だけではなく、地域の中小企業が、環境問題に取り組む機運づくりの工夫は?

洋上風力発電などの再エネ事業に、地域企業の技術力を生かして関わっていただくことが、機運づくりにつながると考える

「北の住まいるタウン」の取組の内容についてまとめたガイドブックをWEBでご紹介しています

発行:北海道(建設部 建設政策局 建設政策課) 電話 011-231-4111 内線 29-671 (担当:上山)

編集:「北の住まいるタウンに係る普及啓発業務」受託事業者:株式会社石塚計画デザイン事務所

https://www.pref.hokkaido.lg.jp/kn/kks/kitasuma_top.htm

2023年12月発行



facebookページもご覧ください
「北の住まいるタウン」